

日経配当指数、11年の最終値 192 円 03 銭、08 年以来の高水準

日本経済新聞社が2日公表した日経平均・配当指数（2011年）の最終値は192 円 03 銭と10年の最終値（175 円 59 銭）に比べ9.4%上昇し、08年の最終値（219 円 73 銭）以来の高水準になった。日経配当指数は日経平均構成銘柄の配当金から算出する。指数に連動する昨年度の配当額が3月末に確定したことを受け最終値が決定した。

11年の日経配当指数の最終値は、1998年以降で08年、07年に次ぐ3番目の高水準。株主への利益配分を厚くする企業が多く、10年の指数に採用され比較可能な指数構成銘柄のうち、11年分の配当が前年に比べて増えたのは89銘柄で、減少した35銘柄を上回った。指数の上昇に大きく寄与したのは、ファナック（6954）、東京エレクトロン（8035）だった。

日経配当指数は暦年ベースで集計する。12年3月期末の配当は6月の株主総会後に、12年の指数に反映される。

日経配当指数(最終値)

